



Be Creative



季節柄、次年度の準備が始まっています。昨日、来年度の「高校生活の手引き」の巻頭文を書き、提出をしました。この文章は 2025 年度 4 月の皆さんに寄せて書きましたが、一足先に、在校生の皆さんに届けます。特に、この文章を読むことなく卒業していく 3 年生の皆さんに寄せて。残り少ない貴重な日々をどうぞ大切にという思いも添えて。



「嫌い」にならないということ

私の尊敬する先生がある時、こう言われた。

「誰にだって苦手なものはある。苦手は苦手でしょうがないが、嫌いになってはいかん。」

「モノ」はもちろん、これは「人間」にもあてはまる。元来、おしゃべりなのに、気の合わぬ人には、つい、無口になる自分に内心ひやりとした。

この先生の言葉から、吉岡秀人さんを思い出す。ミャンマーを中心に無償で医療を提供し、多くの子どもの命を救うことに人生をかけてきたお医者さんだ。彼は「Japan Heart」という NPO 法人を立ち上げ、医療を提供するだけでなく、病気で親を亡くした子どもたちのために孤児院を設立する仕事もしてきた。

彼は若い世代の人達に向かって「人としての基礎体力をつけてほしい。」と呼びかける。彼は言う。「人生には、やがて熟成・発酵し、虫メガネが太陽の光を一点に集めて紙を燃やすように、自分自身のやりたいことにぐっと向かっていく時がやってくる。しかし、人生の傍観者にはその時はやってこない。だから、人生の Player になってほしい。そのために基礎体力を養ってほしいんだ。」彼の若い人たちへの願いだ。

では、どうやったら、人としての基礎体力を身につけることができるのか。彼は言う。嫌いな仕事・苦手な仕事をやってみる、反りの合わない人とチームを組んで何かに取り組んでみる。単に自分のやりたいことややりやすいことだけに取り組むのではなく、自分に少し負荷がかかる、ストレスをもたらすことに取り組んでみる。そうすることで、自分自身の中に柔軟性や寛容性が育まれ、思わぬところで人間としての幅を広げることに役立つ。

「人生の豊かさ」とは何か。「いいことも悪いこともその両方の経験をたくさんすること。」と彼は言う。

「やりたいこともやりたくないことも双方を引き受け、自分自身の中で消化していくことにより、人間の厚みは育っていく。そのためにも、君も自分自身の人生の Player になろう。傍観者になれば時間だけがこぼれ落ちていき、取り戻すことはできない。」「スポーツで考えてみよう。例えば、ラグビーの試合を観て、もちろん観客としても感動することはできる。だけど、悔しさも含め、一番大きな感動を手にするのはほかでもない、選手そのものだ。」

最後にもう一度、先生の言葉を。「苦手はあってもしょうがないが、嫌いになってはいかん。」吉岡さんの思いにも通ずる言葉として胸に刻みたい。



祝 SILAY INSTITUTE 100 周年 100th FOUNDING ANNIVERSARY

姉妹校 SI 校がこの 2025 年に 100 周年を迎えます。あの戦禍を乗り越え、100 年の歴史を迎えられたことに敬意を表します。本学園の丸山悟理理事長とともに、式典に参加をしております。皆さんにもこの式典の様子を「校長室だより号外」にてお知らせをする予定です。どうぞ楽しみに。行ってまいります。